栗山の炭鉄港ストーリー

栗山町は1888（明治21）年に宮城県角田藩士泉麟太郎氏が「夕張開墾起業組合」を設立し入植したことで始まりました。1890（明治23）年には「角田村」設置、1900（明治33）年、角田村戸長役場が設置されました。同年、札幌で創業していた小林酒造が炭鉱で発展し始めた夕張にほど近く、自然の豊かさと豊富な水のある栗山に酒蔵を移転しました。

開田事業に加え、二股炭礦が開坑したことなどによってまちも発展し、1926（大正15）年に北海道炭礦鉄道が夕張の石炭などを運搬するために夕張鉄道（栗山ー新夕張間の本線）を開業。1928（昭和3）年には室蘭本線も開通しました。

1930（昭和5）年に夕張鉄道が野幌ー栗山間を開業したことにより栗山駅は2つの線路の交叉点となりました。

昭和に入り北炭角田炭礦の発展とともに人口は20,000人を突破し、角田炭鉱専用鉄道も引かれました。

1949（昭和24）年に町制が施行され「栗山町」と改称、1963（昭和38）年には役場庁舎を角田から栗山へ移行しました。

その後、石炭産業の斜陽化と共に1970（昭和45）年に角田炭鉱は閉山。鉄道輸送は減り夕張鉄道は1975（昭和50）年に廃止されました。栗山では基幹産業である農業をベースにこれまでの歴史から生まれた産業・商業、小林酒造の蔵といった建造物を栗山の交流や観光の重要な拠点のひとつとしています。

炭鉄港

KURIYAMA 栗山 歴史をめぐる旅物語

日本遺産とは

JAPAN HERITAGE
日本遺産

「日本遺産（Japan Heritage）」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

【本邦国策を北海道に観よ!～北の産業革命「炭鉄港」～】は令和元年度日本遺産に認定されました。

日本遺産ポータルサイト　https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/

自然豊かなのどかな田園風景が広がるまち

栗山町は国蝶オオムラサキの北東限生息地とされる自然豊かな地域で、札幌市や新千歳空港、苫小牧港からそれぞれ車で約1時間の道央圏に位置しています。まちの北西部では、国道や鉄道が通る交通の拠点として中心市街地が形成され、道内各地からのアクセスの良さが魅力です。基幹産業は農業で、水稲や小麦をはじめ豊富な農産物が収穫されているほか、商業、工業もバランスよく発展している、1次、2次、3次産業のバランスがとれた人口1万2千人ほどのまちです。積み重ねられた町の歴史と先人の夢をつなぎ、次世代に誇れるまちを築いていくため、まちづくりの合言葉を「ふるさとは栗山です。」として、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進めています。

【札幌から】
車：約45分（道央自動車道経由）
JR：約1時間5分（函館本線→室蘭本線）
バス：約1時間（高速直行バス）

【新千歳空港から】
車：約45分（国道337経由）
JR：約1時間5分（千歳線→室蘭本線）

【旭川空港から】
車：約2時間（道央自動車道経由）
JR：約3時間（空港リムジンバス→函館本線→室蘭本線）

制作：炭鉄港推進協議会（事務局：空知総合振興局地域創生部地域政策課）

〒068-8558 北海道岩見沢市8条西5丁目
電話番号：0126-20-0146　FAX番号：0126-25-8144

炭鉄港ポータルサイト
https://3city.net/

炭鉄港

歴史をめぐる旅物語

栗山

令和6年3月発行

パンフレット背景色は12市町それぞれの炭鉄港イメージカラーです　【栗山：町名より】

北海道の近代化を支えた 三都を結ぶ物語

北海道の近代化は、1872（明治5）年、石造埠頭の建設が開始された小樽からスタートしました。その後、小樽が北海道のゲートウェイとして一段の飛躍を遂げる契機となったのは、1879（明治12）年、北海道初の近代炭鉱である官営幌内炭鉱（現在の三笠市幌内）の開鉱でした。

その石炭を運ぶための幌内鉄道は、北海道初の鉄道として、まずは1880（明治13）年に手宮（小樽）～札幌間が部分開通、1882（明治15）年には幌内まで全通しました。幌内鉄道は、小樽港への石炭運搬だけではなく、北海道内陸部へ入植する人や収穫した農産物の輸送に活躍するとともに、人や物資の輸送円滑化を通じて道都札幌の発展も支えました。

1889（明治22）年、炭鉱と鉄道は元薩摩藩士の堀基が設立した北海道炭礦鉄道会社（北炭）に払い下げられ、同社によって空知炭鉱（歌志内）と夕張炭鉱（夕張）の開発が進められました。それに伴い、1892（明治25）年に室蘭まで鉄道が延長され、岩見沢が道央圏を東西南北に結ぶ鉄道の交点として、室蘭が石炭積出港として発展する礎となりました。

1906（明治39）年には、鉄道が国有化されました。北炭は、その売却資金をもとに、英国企業2社との合弁により、室蘭に日本製鋼所を設立。1909（明治42）年には製鉄へと進出し（輪西製鉄場：現在の日本製鉄室蘭製鉄所）、室蘭は鉄の街として不動の地位を確立しました。

一方、鉄道国有化によって北炭の独占輸送体制が崩れ、財閥各社は一斉に空知へ進出し、これを足がかりにして日露戦争で獲得した樺太へと勢力を伸ばしました。このことが小樽港の一層の発展を促して、1914（大正3）年の小樽運河の開削へとつながっていきます。

空知・小樽・室蘭の三都を結ぶ鉄道は、全道の鉄道ネットワークの機軸となり、三都の基幹産業である石炭・港湾・鉄鋼は、北海道の産業化を先導してきたのです。

・この地図は空間情報データベース GISMAP を使用して作成した。　・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図を使用した。（承認番号　令元情使、第 415-GISMAP42767 号）

空から炭鉄港
～栗山町～
KURIYAMA TOWN

栗山トリビア

～栗山の栗～

北海道の地名はアイヌ語由来のものが多くありますが、栗山町の地名はアイヌ語の「ヤム・ニ・ウシ」（「栗の木の繁茂しているところ」）を和訳したものという珍しい特徴があります。現在栗山町ではその町名の由来ともなった栗を使った商品を開発するなど特産品化することに取組んでいる他、栗を作る農家さんなどでは栗拾いイベントを行うなど「栗山の栗」を広げる取り組みを進めています。

炭鉄港 めし
～谷田の日本一きびだんご～

谷田製菓株式会社は、創業者 1898（明治 31）年に一族と 13 歳の時入植し、家業の醤油醸造を手伝い、その後 1913（大正 2）年に水飴の製造販売の個人商店として独立したのが始まりです。

1923（大正 12）年には、麦芽水飴・砂糖・生あん・もち米を原料としたお菓子「日本一きびだんご」を考案。菓子問屋を通し、全国、樺太までも販路が拡大していきました。

きびだんごという商品名は、名前を考えていた際に手元にあった桃太郎の絵本を観て、関東大震災の復興を願い、さらに北海道開拓時の助け合う気持ちをこめ、「起備団合」という字を当て販売しました。

炭鉄港 構成文化財
～炭鉱マンが愛した酒に酔う～
小林酒造建造物群

空知に残るレンガ造りの施設としては最大規模の歴史的建造物で、現在も酒造施設として利用され、13棟が国の登録有形文化財（建造物）に指定されております。

小林酒造は、1878（明治11）年、新潟出身の小林米三郎が札幌で創業しました。その後、1900（明治33）年に初代・米三郎によって、石炭大露頭の発見を契機に炭鉱開発で活況を呈しつつあった夕張に近く、豊富な水や広大な用地の確保が可能な栗山へ移転しました。「北の錦」は、炭鉱マンたちに愛飲され、炭鉱の発展とともに生産量を伸ばしていきました。

炭鉄港女子の ココ見て！炭鉄港

大倉加奈 さん
炭鉱が好きすぎて北海道赤平市に移住。
フリーデザイナーとして活動中。

北の錦記念館

建物は小樽の銀行をモデルに設計され、1944（昭和19）年に完成した旧本社事務所。築半世紀を経て1995（平成7）年より一般公開しています。

2006（平成18）年には国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。酒造りの歴史を刻んだ酒器や什器、身の回り品など約5,000点を展示しているほか、酒蔵見学、お酒の販売や試飲を行っています。蔵元限定酒など、ここでしか手に入らない商品もあります。

【開館時間】 4月～10月 10:00～17:00　11月～3月 10:00～16:00
【休館日】 年末年始（12月31日～1月3日）　【入館料】 無料